

教科名

英語

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で慣れ親しんでいるので、やり取りに意欲的に取り組む。 ・単語や文を聞いて理解することができる。 ・単語を知っていても、スペルと結びつかない。 ・小学校の既習単語や文法、文章を表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えを聞いて自分の考えを伝えるやり取りが必要である。 ・まとまりのある英文を聞いて、概要や要点を捉えることが必要である。 ・教科書をスムーズに音読できることが必要である。 ・基本的な語彙、文法を活用し自己表現すること必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットのやり取りを行い、他人の意見を聞いて自分の考えを伝える。 ・デジタル教科書を活用し、概要や要点を聞き取る練習をさせたり、単語や文の音読を反復練習させる。 ・教科書を読めるか確認するために、音読課題を出す。 ・語彙や文法を練習させ、自己表現させる。
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことや話すことを中心とした授業でやりとりができる。 ・語句を覚えて使ったり、文を書いて表現することが苦手である。 ・新出単語を覚えられない。 ・自分の考えを英文で書いて表現することに自信がない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる英語」から「使える英語」になるよう練習させる。 ・基本的な単語や語句・基本文を書けるまで練習させる。 ・新しい表現を使い、自己表現をする機会を増やす必要がある。 ・教科書をスムーズに読める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読む・話すだけでなく、書かせる場面を取り入れる。 ・授業時間に語句や基本文を書く練習時間をとる。 ・自己表現文を單元ごとに書かせ、チェックする。 ・デジタル教科書を活用し、単語や文の音読を反復練習させる。音読課題を出す。
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの文法は理解できていても、それを使い自分のこととして表現できない。 ・単語にとらわれ、長文を読むのに時間がかかる。 ・長文の中で、ヒントになる単語が探せない。 ・どの文法を使って表現するのかという判断ができない。 ・主語、動詞がないなどの基本が身に付いていない生徒が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような状況で使用する英文なのか判断できるようにする。 ・自分のことを表現する時間を増やす。（書く、話す） ・長文を細かく文法説明や内容確認すると、内容だけとらえるのことに不安になる生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい文法を学ぶときには、様々な状況を用意して英文をつくる。 ・毎時間復習の時間を取り、既習事項を使い、自分のことについて書いたり、話したりする。例文も用意する。 ・長文の内容を推測する訓練をする。多くの文章にふれる。